

第17回

- 講演者: **Ade Irma Suriajaya** 氏 (理化学研究所)
 - 題目: リーマンゼータ関数とその導関数の零点の分布及びそれらの関係
 - 日時: 平成29年11月29日 (水) 16:30 - 17:30

リーマンゼータ関数 $\zeta(s)$ の零点は自明な零点と非自明な零点に分類され、自明な零点の正確な位置は知られている一方、非自明な零点の位置はまだ正確にわかっていない。非自明な零点が全て臨界領域 $0 < \text{Re}(s) < 1$ に存在し、臨界線 $\text{Re}(s) = 1/2$ に対して対称的であることは知られているが、実際は全て臨界線上に存在すると予想されている。この予想は耳に馴染みのある有名なリーマン予想である。これは数学だけではなく、他の分野に対する重要な応用があるため、大切な予想である。このため $\zeta(s)$ の非自明な零点が調べられ始め、様々な方法も用いられている。その中に、 $\zeta(s)$ の導関数の零点の分布による方法もある。1935年にA. Speiser氏が、リーマン予想と $\zeta(s)$ の一階導関数 $\zeta'(s)$ の非自明な零点の分布との同値関係を示した。1970年代に、 $\zeta(s)$ の導関数の零点に関する研究が盛んとなり、その後、 $\zeta(s)$ とその導関数の零点の互いの関係が数多く判明した。この講演で、 $\zeta(s)$ とその導関数の零点の分布及びそれらの関係を簡単に紹介する。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

5 images

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2017/017>

Last update: **2017/11/30 16:57**

